

水トラストニュース

2016.12 No.35



もくじ

産廃処分場の是非を問う住民投票から20年1
20代の私3
訃報 「水トラスト」理事長 由井滋5
2015年度 収支決算報告6

産廃処分場の是非を問う住民投票から20年

大沼淳一

朝日新聞の伊藤智章記者^{*}の来訪を受けて気が付いたのですが、当時の御嵩町長・柳川喜朗氏が二人の暴漢に襲われて瀕死の重傷を負ってから20年が経っていたのでした。この事件を契機にして一気に盛り上がった町民の怒りが、全国で初めての産廃処分場の是非を問う住民投票を実現させ、投票率90%の80%(全有権者の7割)が処分場反対に投票して処分場計画をストップさせたのでした。

この事件が起きる半年前まで、私たちは三菱化成100%出資子会社 ARE(Asia Rare Earth)によるマレーシア公害輸出事件に取り組んでいました。ARE はマレーシア中部にある華僑が多数を占めるブキメラ村において、スズ鉱石からスズをとった後の鉱滓からレアアース(希土類)を精製していました。その廃棄物には放射能を持つトリウムが含まれているのですが、村人が自由に往来する空き地に野積みされていました。その結果、子どもたちを中心に白血病や心臓疾患が多発し、村人は裁判闘争を行っていました。私たちも放射線測定器を持って現地調査を行って、高い空間線量率を確認するとともに、被害者宅や住民運動のリーダー宅を訪問しました。その後、イポーの高等裁判所で住民勝訴となり、三菱化成は ARE 社を解散して全面撤退したのですが、損害賠償は認められませんでした。被害者たちは泣き寝入りです。そこで私たちは、被害者への医療費カンパを送ったり、被害住民自立のための廃油石鹼プラントを送るなどの支援を続けていました。

そうしたところに、御嵩町に住むメンバーから「私たちの町で巨大産廃処分場計画が持ち上がっているのよ」という一報がもたらされました。木曾川に面した小和沢という小さな谷の下部にダムを築き、100万トンの産業廃棄物を埋め立てる計画です。当時の私は愛知県環境調査センターで水質汚染の調査研究をしていましたので、すぐに御嵩町を訪問し、住民の方々の案内で現地を視察しました。戸数10戸の小和沢集落はすでに産廃業者(寿和工業)の買収を受け入れていました。産廃ダムの直下には木曾川が流れていて、その下流には愛知用水、名古屋市、愛知県の取水口があり、500万人の飲料水や工業用水、農業用水が取水されています。ダムが決壊したり、浸出水の処理がうまくいかなかったときには木曾川汚染に直結する場所です。愛知県下の多くの産廃処分場を見てきた経験からすると、極めて危険な計画であると考えられました。豊田市猿投地区に建設された愛知県直営の産廃処分場でさえ、浸出水の処理に苦労していました(汚染した浸出水の発生は処分場建設から50年を経た現在でも続いています)。民間処分場では、埋め立てが終了した処分場からは利益が上がるために、業者が管理を放棄して逃げ出してしまう事件が多発していました。

私たちはすぐさま現地調査結果をパンフレットにまとめあげ、「巨大産廃処分場計画から500万人の木曾川を守る会」を立ち上げ、名古屋水道労組や全電通、国労などの労働団体にも協力を呼び掛けて、反対集会を行うなどの活動を開始しました。御嵩町を再訪し、岐阜県知事にあてて産廃処分場計画についての「疑問と懸念」という意見書を送り付けた柳川町長とも会って話をしました。当時の岐阜県知事・梶原拓は産業振興のための処分場推進の立場で町に圧力をかけてきていたのですが、柳川さんは臆することなく、堂々と論陣を張っていました。「かつての御嵩町は亜炭鉱の町だった。日本を支えるエネルギーを供給するために町中に坑道が張り巡らされていた。それから50年後、毎年複数個所で重大な陥没事故が発生しているが、国は十分な対策をしていない。今再び、この国の発展を支える産業の振興



のためにという名目で産廃処分場を受け入れたら50年後にはどんなことが起きるのだろうか。」柳川さんは、この文書を送って数か月後に襲われたのでした。

住民投票の結果は法的な強制力を持つものではありませんでしたが、梶原知事が処分場に許可を出すことを阻止する効果は十分でした。やがて次の知事選挙で慎重派の古田知事が誕生し、2008年になって知事と町長、寿和工業社長との3者会談によって計画の白紙撤回が確認されたのでした。その後、2011年に

なって処分場予定地は岐阜県に寄付されることになって、町長襲撃事件だけが迷宮入りとなった以外は一件落着となったのでした。

住民投票の後、私たちは木曾川の上下流域間に存在する不公平に気が付きました。木曾川の安くておいしい水がぶ飲みしながら繁栄する名古屋市をはじめとする下流域都市圏。これに対して上流域は都市圏に若者を吸い取られて過疎と高齢化に苦しみ、自由貿易で潤う都市圏とは対照的に中山間地域の農林業が衰退しているのです。名古屋市は木曾川の水利権を大正3年(1914年)にタダ同然で手に入れていますから水道料金も1トン当たり約100円と格安なのですが、御嵩町は戦後の高度経済成長期に飛騨川の高価な水利権を買わざるを得なかったために、水道料金は1トン当たり200円を超えるのです。こうした不平等があるにもかかわらず、御嵩町民は下流域500万市民の飲み水の安全に配慮して処分場反対の投票をしてくれたのです。しかし、多くの名古屋市民はこのことに気が付いていません。そのことに気付いてもらうために、また、御嵩町民に感謝するために、私たちは募金を始めました。その額が500万円を超えたところで御嵩町に寄付するために町長室を訪れました。その時柳川町長から御嵩町内に森を買って、上下流域住民交流の場にしてはどうかという提案を受けました。これが「水源の森・みたけ」の誕生につながり、その後の間伐枝打ちなどの森林整備ボランティア活動となって今日に至っているのです。

現在は、毎月第2土曜日に「水源の森・みたけ」周辺の民有林の整備や炭焼き、なごや環境大学講座開催などで多くの下流域市民が森にやってきました。翌日の日曜日は、御嵩町と協定を結んで町有林の整備を行い、間伐材をパルプ会社に出荷するなどの実験を行っています。町有林整備ではすでに5ヘクタールが終了し、現在は新たな5ヘクタール林分に取りかかっています。森にやってきました多くの人々の中には、山仕事に魅せられて人生を変えてしまった人も何人か出ています。

しかし、上下流域間の不公平、不平等を解消し、苦しむ上流域を支援する水源基金などの制度を求める運動は思うようには進んでいません。わずかに、中部水道企業団が1トン当たり1円の水源基金を徴収し、木曾川上流域に毎年数千万円を送る制度の実現の端緒となるが出来ただけです。公害輸出事件を追及する運動から産廃処分場反対運動を経て、上下流域間不平等の是正を求める運動となり、ついには木こり運動へと転身した私たちの今後については、改めて多くのみなさんと議論してみたいところ



です。多くの人々が福島原発事故を契機に原発ゼロ社会へ向けて進む決意をしましたが、その道筋を照らすものこそ国土の67%を占める森林です。67%というのは世界第2位の森林率です。日本列島はまさに森の国なのでした。それをないがしろにして加工貿易立国の道をつき走ってきたのですが、その路線にひび割れが生じて、そこから噴き出したのが原発事故だったのだと思います。

朝日の伊藤記者の記事によると、住民投票10年、15周年は記念集会在開催されたが20周年は何も計画されていないし、小和沢集落は荒れるがままに任せて、岐阜県も御嵩町も何もしようとはしていないようです。柳川さんが木曾川をめぐる事件と町民の勇気を記す記念碑のようなものを小和沢に建てたいと言っていたことを思い出しますが、全く実現の気配がありません。実は小和沢集落には棚田があり、簡易水道も引かれていたのですが、全てが森に呑み込まれつつあるようです。集落を貫通していた県道も管理がされておらず、車の通行も危うくなりつつあります。それに代わって、丸山ダム嵩上げ工事のための立派な迂回道路が建設されています。忘れ去られつつある小和沢集落や棚田、里山林などの復元に私たちが関わることも考えられなくもありません。一度、小和沢集落を見学する会を催してみたいものです。来年の春あたりでしょうか。土地を寄付された岐阜県の意向も聞いてみたいものです。

※「町長襲撃20年、産廃処分場計画の跡地は今 岐阜・御嵩」2016年10月29日朝日新聞朝刊(朝日新聞デジタル：<http://www.asahi.com/articles/ASJBP7KT7JBPOIPE01Y.html>)

20代の私

渡邊順一(現65歳)

昭和50年代の松阪(三重県中南勢部)の林業の話をしていきます。が、60歳から終活を始め、林学関係の書物などを処分したので、曖昧な点は悪しからず。(物は捨てる必要になるものですね。処分し終えた途端に原稿を頼まれて・・・)

私が学んだのは、旧高等農林。学生寮に入り、月4000円で生活できた時代。先輩たちは、林業は伐採が先か造林が先かとよく議論していた。私は玉子、鶏のどちらが先かと同じ感覚で聞き流していた。が、今は造林が先だと思っている。更新のことを考えないと、伐採はできないと思うから。林業は、サイクルの

長い仕事。間伐は、必要な作業で、植栽した時から予定されている。だから、少しでも間伐を進めていきたい。

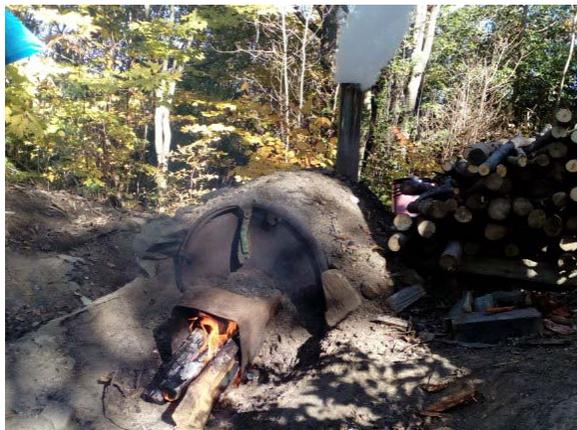
昭和 50 年 3 月に卒業して、三重県松阪市の木材会社に就職した。昭和 48 年は、オイルショックで物価が上がり品物がなく大変な時。就職難の中、やっと入社できた会社だった。私の入社前は、物も見ないで電話だけで商売ができたと聞いていた。が、年が明けたら全く売れず客先の社長からは愚痴ばかり聞かされた。当時建坪40坪の家で、材木代は、構造材(柱・梁・棟・土台)と造作材をいれて40万~45万円。建売の下請け価格は10万円くらいか、それ以下とも言われていた。不況。松阪市内の国道42号線沿いは、林業関係の会社が軒を並べ、2, 3箇所木材市場では、どこかで毎日競りをしていて。松阪は、中南勢の木材の集散地。木材の流通単位は、今でも同じと思うが、国内材が M3(リュウベ)で外材が石(こく)。内地材は、杉と檜がほとんど。外材は、米材(米松・米樺・スプリューズなど)・南洋材(ラワンなど)・北洋材(ロシヤ材)。米松は梁や棟や土台などに、米樺は柱などに、スプリューズは建具材やかまぼこの板や赤福の箱(今は違う)などに、ラワンは家具材や造作材や合板材などに使われる。ほとんどの南洋材は箱材やパレット材、北洋材は土木用材や箱材。北洋材は、ロシヤ産で敦賀港に、米材・南洋材は、ほとんど名古屋港に入る。港には、土場と貯木場の置き場がある。数年前、津市に遊びに行ったが、めったに有料道路を使わない私が湾岸道路を通ってがっくりした。貯木場に木材が全く浮かんでいなかったから。林業のみならず木材業界全体が衰退していると感じた。

ある時、仕事先の製材所の社長から教えられたことがある。

それは、「初任給で生活しなさい。給料が倍になっても初めの収入で暮らしなさい」と。早速、愛妻に話すと、「それなら家計はあなたがやって」の一言で終わり。でも、私は家計だけでなく、この事を生活全般で心がけている。この会社は私事で数年後に退社したが、その後、42号線にあったモダンな事務所はなくなり、他の林業関係の会社もいつのまにか他業種に変わってしまった。

前後するが、次に、学生時代の演習林のことを書く。演習林は雲出川の水源で奈良県との県境にある。近鉄松阪駅から名松線に乗り換え終点伊勢奥津へ。そこから三交バスで終点川上まで。そこには、見事な紅葉が見られる若宮八幡神社がある。授業では、校内から学園バスで川上まで。その後は、道が狭く橋が曲がれないので、荷物だけ演習林のトラックに積み学生は約1時間農道と林道を歩く。一度、学園バスに乗り遅れ一人で行ったことがある。学内にある寮で寝起きしていたのに誰も起こしに来てくれず、あわててひとりで現地にたどり着いたことも良い思い出。

実習は、測量、測樹。植樹などで間伐の実習はなかった。演習林の職員は地元の林業家。蝮のにおいが分かるそうで、ある時ブッシュに入り小枝に蝮をぶら下げて出てきた。小枝の先を少し割り、その間にべつの枝をはさみ口を開きその間に蝮の首をさしこみ、それを土に差し込んで捕まえるそうだ。蝮をぶら下げて、みんなの目の前で首から尾へさつと皮をむいた。口はまだ動くので注意せよと。蝮の目は眼に良く、肝は強壯に、皮はできものの吸出しに効くと言



われた。卵の元もあった。本体と皮と卵は宿舎に持ち帰り、残りの内臓は土に埋め、成仏せよと手を合わせた。身と卵は風呂の焚口でグリルして食べた。身は小骨が多くうまくなかったが卵はチーズみたいだった。卒業後も寮の同窓会で演習林に行けば、蝮の話は必ず酒の肴に。

食べ物の話をもう一つ。

学生時代、馬術部にいた。秋は寮祭がある。お化け屋敷や寮生の趣味や写真の展示など。中でも一番好評だったのが焼き鳥屋。ヒヨコを買ってきて羽を筆り焼く。ある年、馬術部で三頭の馬を去勢した。獣医が投げる玉をバケツに拾って寮に持ち込み、これを焼き鳥にどうだといって渡したら串にさして売ったそう。夕方寮に戻ると完売で好評だったとか。

そんな 20 代を過ごしてきた私だが、今、改めて緑の必要性を痛感している。林業人口が4万人を切りそうで国が動きだしたそう。どんな時代になっても緑は必要だ。昔、ドイツでは小学校で植木の授業があったと聞いた。児童期から緑の大切さを教えていくのも大事だろう。以前は台風や豪雨などで山崩れが発生したとき、林学者が山の荒れを訴えていた。今は、林学者の視点あまり語られないのが残念に思う。先日近畿大学農学部の先生の話聞く機会があり、農学の将来にひかりを感じた。林業の問題点は多々あるが農学同様、一抹のひかりが見出せたらと願う。そのためには、まずは、若者が集まること。若者の力に期待したい。

訃報



由井 滋

(「みたけ・500 万人の木曽川水トラスト」理事長)

1942 年 7 月 27 日 長野県南佐久郡川上村にて誕生

1973 年 10 月 28 日 司祭叙階 (神父)

1997 年 4 月 26 日 「水トラスト」設立 代表

2000 年 12 月 3 日 「水トラスト」NPO 法人として登録 理事長

2016 年 10 月 30 日 死去 (享年 74 歳)

2015年度 収支決算報告

2015年4月1日から2016年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
(資金収支の部)				
I 経常収入の部				
1 会費収入	140,000	98,000	42,000	
1) 正会員会費収入	40,000	40,000	0	正会員年会費 2000円×20名
2) 支持会員会費収入	100,000	58,000	42,000	支持会員年会費 2000円×29名
2 事業収入	150,000	169,122	△ 19,122	環境大学講座参加費と助成金、大王製紙売り上げ
3 補助金等収入	0	0	0	
1) 民間補助金収入	0	0	0	
4 寄付金収入	200,000	245,000	△ 45,000	
1) 寄付金収入	200,000	245,000	△ 45,000	個人有志より
5 借入金収入	0	0	0	
1) 借入金収入	0	0	0	
6 雑収入	55,100	24,942	30,158	
1) 雑収入	5,000	800	4,200	春食べ、新年会の会費残など
2) 保険料	50,000	24,000	26,000	ボランティア保険参加者負担分
3) 受け取り利息	100	142	△ 42	預金利息
経常収入合計	545,100	537,064	8,036	
II 経常支出の部				
1 事業費	530,000	337,661	192,339	
1) 水源林の保護育成事業	330,000	260,345	69,655	水源の森みたけ森林管理、車検、ボランティア保険
2) 水源地域環境保全のための政策提言事業	100,000	27,436	72,564	御嵩町有林管理、ガソリン代他
3) 環境保全啓発事業	100,000	49,880	50,120	水トラストニュース印刷製本発送費
2 管理費	165,000	144,137	20,863	
1) 役員報酬	0	0	0	
2) 給料手当	0	0	0	
3) 臨時雇賃金	0	0	0	
4) 福利厚生費	0	0	0	
5) 会議費	12,000	12,000	0	理事会1回 総会1回 役員会12回
6) 旅費交通費	0	0	0	
7) 通信運搬費	10,000	792	9,208	切手
8) 消耗什器備品費	0	0	0	
9) 消耗品費	8,000	1,345	6,655	
10) 印刷製本費	10,000	10,000	0	資料代
11) 光熱水料費	0	0	0	
12) 貸借料	120,000	120,000	0	事務所貸借料
13) 諸謝金	0	0	0	
14) 租税公課	0	0	0	
15) 雑費	5,000	0	5,000	
3 予備費	15,000	0	15,000	
1) 予備費	15,000	0	15,000	
経常支出合計	710,000	481,798	228,202	
経常支出差額	△164,900	55,266	△220,166	
III その他資金支出の部				
1 固定資産取得支出	0	0	0	
1) 水源の森土地取得費	0	0	0	
2 借入金返済支出	0	0	0	
1) 借入金返済支出	0	0	0	
その他資金支出の合計	0	0	0	
当期収支差額	△164,900	55,266	△220,166	
前期繰越収支差額	734,907	734,907	0	
次期繰越収支差額	570,007	790,173	△220,166	

臨時総会のご案内

時：1月24日（火）19：30～

場所：名古屋働く人の家（地下鉄・伝馬町下車、徒歩6～7分）

議題：理事、理事長の選出、その他



気軽に、楽しく 山仕事に参加しませんか

とき：毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

集合場所：御嵩町・中公民館（名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ）

集合時間：午前10時

参加の方法：電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

参加申し込み・問い合わせ先：TEL,FAX: 052-735-5453(市村)

E-mail : mitake500npo@yahoo.co.jp

服装：長袖、長ズボン、作業の出来る履き物

持ち物：軍手、弁当、水筒

表紙の絵は早川しょう子さん作
裏表紙の絵は市村加奈子さん作

発行

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曾川水トラスト
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付

TEL&FAX 052-682-4737

郵便振替00800-9-64810

URL <http://mitake500npo.na.coocan.jp/>

e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp